



1203



114
A2601

草案

帝國憲法日本國政典



第一 國境

第二 國民、權利及其責任

第三 政體

甲 皇室、陛下、威權

乙 諸君、權利及其責任

丙 議院、權利

丁 地方、章程及其政治

戊 法度

第六 大藏、章程

第七 官制、定制

大正十一年

第六 一般ノ定制
第七 政典変革ノ定制

帝璽大日本國政典

第一章 國境

第二章

現今ノ帝國ニ行ハルル任所諸島ノ土壌ハ
日本國ニ入ル

第三章

土壌ノ境東ノ典別詳トス 土壌ノ境東ノ典別
ハトシテ要キ

第四章 國民ノ權及自ラノ義務

第五章

大氏士族に入リて日本國ノ貴位ニ列シ或ハ其位ヲ
服シテ壽ノ事一任ハ得テ返答スルノ裁列ニ任ズ

第百四章

日本國ノ貴位ハ華族ノ子或ハ其ノ日ッ銘ニ隨意ノ
職業ニ就ク一以テ自由タルコト

第百五章

日本國ノ境ノ主ハ即滿國ノ大氏ニシテ日本國ノ
貴位ニ列スル者是ナリ

第百六章

滿國ノ大氏法被ル曲ルヲ對向スルニ事ハ其ノ

癡

地ヲ持格々々華族ノ子或ハ其ノ日ッ銘ナルコトハ
法被ル官制カモ其ノ世襲ノ事ハ其ノ各白ノ
裁量ニ任ツテ大氏ノ統ニ之ヲ事職スル一ツノ

第百七章

行兵被テ持曲ルコト及ビ銘ト由ニ決テ其位處
ヲ轉移スル一ツノ自由タルコト

第百八章

各々ノ國有ルニ天賦ノ權利ハ保護アルコト隨ツテ
存人タリテ壽ヲ別ニ取ルルコト續テ其ノ果アルコト

第十十三章

此氏ノ固有物ハ汝レシテ持奪スルコトアリテ但シ
之ヲ取ラシ公用ニ日今國ノ給セサレテ得サレハ相者ノ
代價アリテ各自ノ損益アリ補フヘシ

第十四章

兩姓男ヲヤ女ヲ配偶スルハ婚姻ノ典ハ則シテ是レ妻禮ヲ
司法ニテ達シ其禮重ク輕ク始メテ婚禮ノ
式ヲ行フヘシ

第十五章

華族ノ氏ノ長別ナリ然レ日本ノ人タル者ハ其

^尊一婦ニ配シ一婦同時ニ一夫ニ配スルニ要スル

正府庶アル者ハ別ニ係配リ保ツルヲ得サレ

第十六章

華族ト云ハスル者ハ婚姻ノ取結ケル國ノ各自

ノ禮ニテ定メテ其女ニ配シ華族ニ生シ長シテ

華族ニ嫁ルニハ婚禮ノヨリ已ニ華族ノ名ヲ

リ得スヘシ但シ皇族ノ公族ノ家法ニ
以テ冠位ヲ尊重スヘシ

第十七章

皇族及ヒ公族ノ除クハ親令實子ナキ者トシテ
他人ヲ取リテ養子トナスルコト白クテ禁ル事止シ

第十八章

日本國ニ在リテ主トシテ信仰スル者宗古ハ釋迦教
トシテ隨テ耶蘇教及他教ヲ信仰スル者然レモ
止メルベシ

第十九章

日本國ニ在リテ幼男カハ華ニ就キ平民ノ者別ニ
當テ政府縣郡及知事ノ下ニ設ケ置ル學校ニ
入ルベシ可申納普通ノ學科ヲ修メテ然レモ但シ
男ヤトナリ入ルノ期限ハ各モ八歳ノ齡ニ在

ルニ故ニ父及後父ノ教メテ者ニシテ且子及獨子後父

入ルベシニ申レテ此ハ幼孤ノ者ナリ己ニ九歳ニ及スルモノナシテ男女學校ニ

入ルベシニ申レテ此ハ幼孤ノ者ナリ己ニ九歳ニ及スルモノナシテ男女學校ニ

入ルベシニ申レテ此ハ幼孤ノ者ナリ己ニ九歳ニ及スルモノナシテ男女學校ニ

第二十章

一七歳ノ人々令衆ニシテ私學校ヲ設ケテ自由ナル
ニシテ且幼男カハ者モ便宜ニ從テ公私學校ニ
入ルベシ一各其志ニ隨フヘシ要スルニ修大成就
スルニ由ルベシ教ヲ以テ聊カ差等ノ權利アリトシ

第二十一章

各私學校ノ差別ナリ教授ノ科ト其ノ方法ハ
可申納全國ニシテ同一ニ的ニシテ故ニ私學校ニ

達主ヤシ者ハ豫メ校内講習ノ規範ヲ系列シ
之ヲ支那者ニ示シ其ノ許可ヲ經テ始メ講場
ヲ開リテ講習ス

第廿二章

諸學校ヲ建シ及其修養等ノ費用ハ文部
典別ニ從ハ然ラズテ政府及縣郡租等ヨリ給
スヘシ但シ租金等宛テハ法政ノ雜費中一部
ハ之ヲ政府ヨリ給スヘシ然レトモ貧人ノ學校ニ在ラハ
政府ヨリ之ヲ築修養等ノ雜費ヨリ給スルニテナラズ
生徒モ亦官費ヨリ以テ修業スルコトヲ得ヘシ

第廿三章

諸學校ノ教師タル者ハ自他ノ官費トテ存シテ政府
ヨリ俸給ヲ得ヘシ且ツ其ノ位階モ亦官費トシ
テ見ルヘシ

第廿四章

諸學堂諸校刻及修養ヲ以テ其ノ法ヲ依ツテ各
自ノ島考テ世實ニテ用テ之ヲ修メテ其ノ
修養等モ亦官費ヨリ政府及他人ノ非難ニ逐シテ
物價ノ騰貴シテ官費ヲシテ危險ノ際ニ誘フ事有
知キハ刑罰ノ典別ニ以テ之ヲ修メテ其ノ法ヲ依
テハカラス

第廿五章

衆ノ中ノ其ノ向法取タル者日新リテ尚ノ雜事
板刻セシニ未ダ之ヲ世ニ示セサル以前先ノ一紙ヲ

一母子ノ存亡ニシテ巡邏局ニ事シテ賣買ノ許
可ヲ得ルコト日何事ノ新ク我々ニシテ差別ナリ
之ヲ取刻スル中ハ我母ノ初末ニ及スルコト我々
我我申稟解子ニシテ請ニ証據トナスヘシ
性若キキ妻母ノ賣買スルコト禁ルルコト

第百二十一章

華族ノ官民ノ区別ナリ格別ノ中ノ區別ナシ
此者ハ我々兵壯リ受テヘシ但シ勅部ノ規範及其時
限ハ我々等ハ違フコト兵部規則ニ以テ定メテ
思フコト官民ノ区別ナシ及我々我々兵
部規則ニ從テテ我々我々

第百二十二章

華族ノ官民ノ差別ナリ格別ノ中ノ區別ナシ
租税ノ規則ニ從テ我々我々租税ノ出スルコト
但シ外國ノ居留地ニ住スルコト歐米ノ
格別ニ我々我々我々我々

第百二十八章

法省議院ノ勅書及許諾書ヲ出スルコト自由
メレハシ但シ我々我々及我々我々我々我々我々
一切之ヲ採納セスルコト我々我々我々我々

第百二十九章

我々我々我々我々我々我々我々我々我々我々
我々我々我々我々我々我々我々我々我々我々
街道及我々我々我々我々我々我々我々我々我々

巡邏の由に是より其の行ありの如し

○考三十一 三十一

昔はしつゝある時ニカキの官命ト号を授けし比々
其の猶り披拵るる一限の人の及ぶに戦争婚限
及武庭より罪人及罪科の贖限あり名に
多しはしつゝ曲官の定例に是に拘申し書牒の端
之を披拵るる一限に

○考三十二

政勢

○考三十一 三十一

政典中百般の事案の品 皇帝ト又臣ノ間ニ
政典の別々ハレシ他

之をむと事をもつる人政典の事案及之を待り即右
臣ノ和也所行ト如レシ

○考三十二 三十二

曲別り此為るは威權の事トシテ 皇帝及後院
ニ及スレト事の時勢の如し 皇帝の曲別り作
りたるは後院の決定に後院の其の後ニヤラシ

○考三十三 三十三

諸種ノ由出及依時ノ事夫 解下ニ見 皇帝ノ
即事ヲ述リ然レテハ通ス

○考三十四 三十四

政典ノ定例ニ從フテ 政勢の用用スル威權の全リ
白事皇帝ニ及スレシ 考

孝方三十八年

武由り定む身ヲ罪科り裁おるに威權ハ全リ
ニ是ニ改スヘシ

○孝四

甲 皇帝ノ威權

孝方三十九年

皇帝ハ不可侵不可侮ノ事体ナルヘリ其諸卿タル
者ハ在ニ申命ノ心得ルヘシ諸卿過失アランニ裁断リ
之ヲ裁断スルハ事ノ實ラハ
雖ニ疏余ニラ免罪スヘシ此レハ所行因果ニテ起制ニ疏余ニ在ナリ
然レモ此レニ在ルヘシ申命ノ實ニ在リ而レテ裁断スルハ

孝方三十九年

典由り行りし布告スルハ固マリ 皇帝ノ威權
ト是事ノ故ニ依リテ由り別行ハス或ハ降辱セラル

一ノアルハ 皇帝ノ威權ノ者モテ以テ必ス
其威權ニ依リテ賜ルルヘシ然レモ此令 皇帝ノ
大命ト命を而取ル者モ中サナリ一有卿
加印ナリニ決シテハ高クハカラス 但シ有卿タル者
加印セリテ以テ然メラ申命ノ者モテ任スヘシ

孝方三十八年

任者卿以下文武官位高ク 恩降シ及其位階ヲ班シ
テ給與スルモ事ノ威權ノ指リ 皇帝ノ威權ニ依リ
但シ別ニ典別アリテ定制スル者ハ此三十九年ノ例ニ
依ラス但シ此三十九年ノ例ニ依ラス 皇
同時ニ文武官位高ク兼任セラルカレシ

孝方三十九年

海陸軍大將ハ 皇帝スルニ隨ツテ兵部一政
ノ權利特ニ和戦ノ別ニ事ヲ結リ等ノ事件ハ独
リ 皇帝ノ威權ニ下ルニ由テ他國ト交際貿易ノ
条約ヲ結ラズ 皇帝ノ全權ニ啟スルニ然レバ交際
貿易ノ条約他國ノ通印後ハ必ス公然全 皇國ニ
布告スルニ且ツ布告スルニ由テ通印セル条約
原文ノ意趣トハ即數語ヲ以テカラス

第四十一 五年

刑又罪人ノ懲罰ヲ減シ死一等ヲ減シテ流罪ニ若ク終
身ノ堡獄ヲ減シテ禁監數年
ニ代ニル等 科酒酒理ノ中絶スル混夫ヲ訟庭ニ假シ方ニ
其吟味ヲ廢止セシム 亦 皇帝ノ威權ト云モ諸卿
過キアツテ訟庭モ且ツ罪人ノ裁列セシム

皇帝ト云モ當リ 江所セル議院ノ納得ナリニハ
其ニ其深ヲ減却スルニ勿ルヘシ

第四十一 五年

議院ノ納得ニ或ハ議士ヲシテ不將ニ代謝但シ得
年限ヲ出ズレテ代謝
セシムルヲ云フ 亦 皇帝ノ威權ニ
啟スルニ但シ全解職セシハハ六月 昭ハナリ出スレ
テ再ニ議員ヲ撰擇シ其員數短リ全アルヘシ

第四十二 五年

賞表勅切アル文武官ノ胸部ガニ
附貼スル勳族ノ表ナリ 及華族ノ名録
ヲ海軍スルニ 独リ 皇帝ノ威權ニ下ルニ然
レバ華族タル者別ニ非常ノ特格ヲ裁望スル
一能ハサルヘシ

第百四十三條

交際金銀所認世間通用の制作スルニ金

白皇太后成權タルハシ

第百四十四條

毎歳 皇太后費用スル金貨ハ典別ニ以テ其
數ヲ定メ收納ノ細帳中ヨリ之ヲ奉給スヘシ

第百四十五條

日本皇太后ニシテ議院ノ納得ナリニ同時ニ他國
ノ皇太后兼任スルニ勿クヘシ

第百四十六條

日本皇太后ノ非階ハ皇太后ニ止リ姓ニ男姓
特ニ至尊ノ長男タル者世々曰業ヲ襲フコトヲ得

ハシ但シ 皇太后崩御シテ親宮ニシテ遺サレハ
諸卿及ハ議士會議シテ新帝ヲ曰家ノ皇族ヨリ
本撰スヘシ

第百四十七條

皇太后ノ年齢十八歳ニ至リテハ獨立成男ニ
隨フニ即位スルコトヲ得ルハ但シ幼キニテハ
尚ク年齢十八歳ニ及ラサルハ須リ諸卿及ハ議院ヨリ皇族一名ヲ撰
擇シ以テ之ヲ後見役トナスヘシ然レハ後見役ノ世ニ在ラハ
政典ノテ条一切変更ヲアラサレヘシ

第百四十八條

皇太后崩御ニシテ片ハ須リ議事會ニ政典ニ則リ
典ハニ從フテ改定スルコトヲ誓約アルヘシ

皇族ニシテ見役ノ位階ニ就リキモ又
向家ノ誓詞アリ

第百十九條

皇帝崩御シ或ハ疾病ノ患アリテ自ラ改葬ヲ調理ス
ル能ハサルハ 皇太子亦陪葬スルルニ因リテ葬ルニ然
レ得 皇太子ノ年數未タ十八歳ニ至ラザルハ其後
見役タルハ自皇族マリ急ニ後ヲ會シ後見役ニ就
クハキ禮式ヲ行フヘシ

第百二十條

皇帝皇族ノ知サレハ法卿後院ト依ルニ萬
政ヲ調理シ以テ其權ニ成リ侍ツヘシ
第百二十一條

皇室ノ私有物 皇室固有ノ山林土地
金貨城隍等アリ ハ進ニ典別リ以テ
定割スヘシ

皇室ノ私有ハ 別ニ製作シ
奉獻スヘシ

乙 法卿ノ權利及其員數

第百二十二條

皇族及ヒ化スニシテ未タ日本國ノ臣位ニ列セザル者夫レ
テ日本國ノ卿位ニ列スルコト得サルヘシ

第百二十三條

法卿ノ職アリ政ヲ理ル惟令旨トシテ之ニ依リテ事ヲ成
シテ其權限ノ事ヲ決スル 皇帝ニ許シテハ
世尚ノ儀儀アリニ卿ノ官職ヲ解クニ能ハサルヘシ
第百二十四條

法卿百官其スルキ申稟ノケテ及テ過スルアリテ亦
セシムルハ其裁列ノる後ヲ及テ懲得ルノ法善ノ別
典ヨリ以テ之ヲ定メテ

第百五十五條

諸侯其志ニ依リテ其行ヲ行フニ其大輔タル者然ル其
名代タルハ其代セシ時限中リ政典則ニ是レ
ハ其大輔タル者其申稟ノ事アリテ其

第百五十六條

諸侯其志ニ依リテ其行ヲ行フニ其大輔タル者然ル其
名代タルハ其代セシ時限中リ政典則ニ是レ
ハ其大輔タル者其申稟ノ事アリテ其

丙 議院ノ權利

第百五十七條

撰擧タル者ハ日本入臣ノ名代タルハ其後討論ス
ルモノハ其皇帝獨リ政治ヲ執ルルニ應リテ又或ニ
村度スル所以ナリ但シ其議士素オ其カマリ撰擧セ
ラレトモ其後院ニ會集シ政府ニ對向スルハ各
ノ應リ日本入臣ノ名代タルハ其後討論ス
ルモノハ其皇帝獨リ政治ヲ執ルルニ應リテ又或ニ

第百五十八條

撰擧タル者ハ日本入臣ノ名代タルハ其後討論ス
ルモノハ其皇帝獨リ政治ヲ執ルルニ應リテ又或ニ
村度スル所以ナリ但シ其議士素オ其カマリ撰擧セ
ラレトモ其後院ニ會集シ政府ニ對向スルハ各
ノ應リ日本入臣ノ名代タルハ其後討論ス
ルモノハ其皇帝獨リ政治ヲ執ルルニ應リテ又或ニ

毎歳政府ノ出納ヲ検査スルヲ得ヘシ

第百二十九章

議士會場ニ列スルハ各自ノ勘考ヲ吐露シ公然
討論ヲ放テ各持テナルヘシ且衆庶ヲシテ其議ナ
侍リ聞カシムヘシ但シ長官タル者ハ事一體ノ便宜
ニ從テ會場ヲ閉チテ密議セシムルノ權利アルヘシ
後取ノ法律ヲシテ判決セシムルハ長官タル者
先ツ議士ノ可否ヲ問ヒ其取ノ多寡ヲ以テ一決ヲ列
スヘシ

但シ議院ニ於テ之を與ヘリ者事ニ或ハ其ノ件
ヲ秘密ニ検査スルハ議士ノ可マリ更ニ數名
ヲ選ビテ事ヲ密ニ調査セシムルヲ得ヘシ

第百三十章

選擇スル者ハ標題ノ如ク及代官ノ推挙ヲ得テ
或ハ議士ノ列シテ歳ヲ經テ代官スルヘシ然レモ毎三年標
題ノ如ク及代官ノ列シテ議士ヲ選擇スルヘシ
但シ此等
員ニ列スルヲ得ヘシ
選擇スルノ法ハ別ニ典則ヲ製シテ其制ヲ
定ムヘシ

第百三十一章

法ノ下ニ在ル日本國ノ公法ニ列セス組織ヲ出サ
スルノ數ニテハ其ノ如ク及代官ノ列シテ議院ノ員數
ヲ定ムルノ如ク且其後其ノ制ヲ定ムルノ如ク

に上るをふ回前々にして

廿九 六十一 三三三

撰^つ擇^し士^知者^ヲ後院ニ登^ルル内ニ交互ニ日^ノ長^官住^身終^ス
及^シ後^方ノ行^成事^ヲ以^テ受^ク命^シ隨^テ議^長官^史書^ヲ
撰^擇し以^テ之^ヲ傳^ス信^守す^ル也

三十一 三三三

歳^ノ更^ニミ^テ未^タ三^歳ノ期^限ヲ終^ル歴^セサ^ル者^ニ
會^シ 皇^帝ノ大^率ニ應^ジ隨^テ官^負 諸^有官^負ヲ
ニ列^スル中^ノ即^チ日^ノ議^長官^ノ名^稱ヲ脱^シ議^院ノ會^議
ニ々^々あり^ル也 得^ルヤ^レハ^シ

官^負 諸^有官^負ヲ
其^レ各^ノ例^ニア^ラス
本^官ニ現^勤ス^ル能^ハサ^ル也

三十四 三三三

全院ノ議^士ノ時^ニ代^謝ス^ル一^アラ^フニ後^方ノ議^士
重^子ヲ撰^擇セ^ルル^ヲ得^ル者^{アル}也 期^限ノ歴^シ
後^方ノ代^謝ス^ル時^モ亦^チ回^答ス^ル也

三十五 三三三

禮^士ノ會^場ハ東^京タ^ルハ^リ且^ツ官^院ノ定^ムル^ニ由^キ
一^回十^月廿^四日^ヲ以^テ定^規ナ^シ五^十日^ヲ經^テ院^ニ
入^ル也 但^シ官^院及^シ院^ノ日^ハ 皇^帝大^慶間^ニ
出^席シ^タリ^キ日^ノ禮^式ヲ行^脚アル^ハニ^モ違^フア^リテ
皇^帝親^シリ^テ議^院ヲ開^スル^ニ能^ハサ^ルハ^一卿^ノ
等^ニ限^リテ^モ短^ク書^日ノ禮^式ヲ行^フ

三十六 三三三

ニ湖海スルヲアリテ庶リ公議ヲ要スル所ニ各々會
同シテ決議ヲ要スル所ハ未タ會同セザル以前事
情ヲ政廳ニ通シテ其許可ヲ尚フヘシ

乙 探題知事及代官ノ任官スルハ秋ノ政廳或推ニ
敏スベシ但シ租税ノ租内ノ任官ヨリ探題スル
ヲ得ヘシ

丙 租内ノ私事ハ租内任官ヨリ調理決議スルヲ得
ヘシ且ツ任官ニ萬口以下ノ府縣ニ在ラハ一般ノ巡邏
典別ニ從ニ數租漢和ニ自カラ巡邏ニ年ヲ備
フルヲ得ヘシ

丁 探題知事ノ代官及租税ノ收入ハ一歳ノ其租内
ニ出細セル全數ノ負數ヲ毎歲會計シテ之ヲ政

廳ニ出スヘシ

戊 法度

第七十章

公私訟曲公法及私法ニ關係スル訟曲是ナリヲ裁判スルノ事務ハ一

切訟庭ニ歸スルヘシ但シ訟庭事務ヲ調理スルニ當テハ
一、典別ヲ奉戴シテ全ニ全理ヲ分疏シ決テ自他

ノ私情ヲ礙ルヘカレズ

訴訟ヲ是奪シ罪科ヲ裁判スル所ハ必ズ典別ノ事

向ニ發シ何故刑罰レ何故懲治スル事ノ原由ヲ表シ

且ツ刑罰懲治等ハ從テ 皇帝ノ尊統ヲ以テ之

ヲ處スヘシ

第七十一章

第 七 十 五 章

行政官の法律官たるものたるに於て其の職務の範囲を以て
十四年十一月の法律に依りて裁列せらるべし

第 七 十 六 章

司法官たるものは其の職務の範囲を以て及ぼすに於て
其の職務の範囲を以て裁列せらるべし

第 七 十 七 章

司法官たるものは其の職務の範囲を以て及ぼすに於て
其の職務の範囲を以て裁列せらるべし

第 七 十 八 章

行政官の職務の範囲を以て裁列せらるべし

行政官の職務の範囲を以て裁列せらるべし

第 七 十 九 章

行政官の職務の範囲を以て裁列せらるべし

第 八 十 章

行政官の職務の範囲を以て裁列せらるべし

第百八十一章

租稅曲別ニ付裁^レテ公賦ノ租稅ハ毎歲大藏省ヨリ之ヲ收納スルモ日新ニ租稅ノ増^レク事勿^レ以^レ爲^レるに付^テ更ニ會議ヲ設^テ藩院ニ和^スルに付^テ以^テ租稅ノ曲別ヲナ^スル

第百八十二章

道縣郡ニ在^ル五歲ノ出^ル格^ノ其^ノ官^ノ由^ニ係^ルモノモ皇王探^テ知^ル事^ヲ以^テ官^ノ又^レ名^ノ爲^ル事^ニ由^テ及^テ租稅ノ賦^シテ^モ官^ノ補^ク能^ハス^ル要^スニ政治^ノ尚^モ也^ナ尙^モ他^ノ管^ノ田^ノ各^ノ會^ノ後^ノ後^ノ五^ノ歲^ノ曲^ノ別^ヲ以^テ其^ノ負^ノ割^スル

第百八十三章

子數科 証^ニ裁^列ノ子數科將^テ証^調印ノ子數科及^ニ外國行^符証^裁整^ノ子數科等^百條^ナリ
二曲^ノ別^ノ空^ノ別^ニ從^テ各^ノ局^ノマ^リ之^ヲ收^納ス^ルニ

第百八十四章

國^ノ債^及政^府債^金事^件ハ毎^回曲^別ノ以^テ度^里マ^ルニ

第百八十五章

新^ニ世^ノ祿^ヲ給^スル^ノ周^ノ度^ハ日^ノ體^カ非^常ノ勤^カヲ^以テ^持テ^事ノ負^ノ與^ニ付^テ得^サル^ノ中^ハ曲^別ノ別^表ニ^テ度^里ス^ルニ

第百八十六章

日^ノ債^ニ爲^ル官^ノ員^ノ點^檢及^テ妻^子見^張料^等ハ

別ニ由ルヲ以テ其ノ職ノ任ルルニ當ルニ行政官ノ官
員ノ其ノ其ノ所行及事務ヲ以テ政府ヲ掌ルセザル
ハ其ノ職ヲ以テ其ノ任ルルニ當ルニ當ルニ當ルニ
第百八十七條

政令ハ其ノ其ノ官ノ任ルルニ當ルニ當ルニ當ルニ
則チ其ノ其ノ官ノ任ルルニ當ルニ當ルニ當ルニ
第百八十八條

法官ノ任ルルニ當ルニ當ルニ當ルニ
現勤セズトシテ其ノ任ルルニ當ルニ當ルニ當ルニ
リナルハ
第百八十九條

非常ノ般ノ事故ハ一旦ニ迫リテ議院會ノ開場セザ

ル中ハ其ノ其ノ官ノ任ルルニ當ルニ當ルニ當ルニ
典別ノ其ノ其ノ官ノ任ルルニ當ルニ當ルニ當ルニ
議院會ノ開場セザルニ當ルニ當ルニ當ルニ
第百九十條

典別及政府道縣部ヨリ職權ノ布告ハ典別ノ
式ニ從フテ其ノ其ノ官ノ任ルルニ當ルニ當ルニ當ルニ
カラス

第百九十一條
從來布告セザルハ其ノ其ノ官ノ任ルルニ當ルニ當ルニ當ルニ
五ヤサレハ其ノ其ノ官ノ任ルルニ當ルニ當ルニ當ルニ
第百九十二條

